

## 杵築いちご学校第1期生が就農

東部振興局  
佐知 志保・藤本 敬子

杵築いちご学校第1期生（2組4名）が2年間の研修を修了し、本年9月から杵築市西溝井地区で営農を開始しました。

振興局では、25年12月の研修生の募集から、学校での研修（座学及び実技）、就農地の確保、施設建設など、入校から就農に至るまで部会、JA、市と連携して支援を行ってきました。

第1期生は、「次世代を担う園芸産地整備事業」により整備したリースハウス各20アールに9月18日定植を完了し、順調に栽培に取り組んでいます。

また現在、第2期生（3組4名）が研修を開始、2年後の就農を目指しています。

第2期生は、全員県外からの移住者で、全国の就農支援制度の中から大分県の就農システムを高く評価し、いちご学校への入校を希望された方々

です。

杵築市のいちご産地における新規就農者の育成サイクルが順調に動き出しています。



第1期卒業生（4名）

## ジビエ料理の普及に一役！

東部振興局  
芦原 義伸

県では野生鳥獣による農林産物被害対策に取り組んでおり、その対策のひとつである「獣肉利活用対策」として、イノシシやシカの肉の活用（ジビエ料理）を広く普及しています。

そこで、東部地区森林・林業活性化協議会では別府溝部学園高等学校の食物科の生徒とコラボして、様々な取り組みを行っています。

溝部学園には、鳥獣害対策の重点集落である別府市内竈地区で開催する「堂面棚田文化祭」においてジビエ料理を提供できないかと、協力を依頼したことをきっかけに、杵築市のフランス料理店のシェフによるジビエ料理教室を開催したり、農林水産祭において高校生ジビエレストランを出店し、一般の方にアピールしてもらうなど、ジビエ肉の利活用に関する取り組みを行ってきました。食物科の生徒は、調理師を目指しており、ジ

ビエという食材を体験することで、将来的には、ジビエ料理の普及にも一役買ってもらえたらと考えています。

県内では、昨年度、21万頭を超えるイノシシやシカを捕獲しています。

今後は、そこで得た貴重なジビエ肉の有効な活用法を求めて、飲食店等に呼びかけ、ジビエ料理の提供が進むよう、取り組んでいきたいと考えています。



農林水産祭での高校生レストラン

## 防災ため池の改修工事着手

東部振興局  
木村 博志

平成28年11月7日に、国東市国見町にある鷺野尾池の堤体工事の安全祈願祭及び起工式が、国東市、地元受益者ら約20名出席のもと開催されました。

鷺野尾池は国見町の中部、櫛海地区にあるため池で、築堤から約140年が経過し、老朽化により漏水が発生するなど、農業用水の確保に支障を来す恐れがありました。また、大規模な地震及び豪雨により決壊した場合に、農地・農業用施設だけでなく、道路などの公共財産に多大な被害が発生する危険性があるため、国庫補助事業で採択されました。

平成26年度に地質調査・測量設計、平成27年度に用地測量を実施し、今年度の工事着手となりました。工事は、平成30年度までの3年間で予定しています。

今回の改修により、農地13.0haの農業用水が安定して確保されるとともに、安全性が向上し、地域全体の災害への不安が軽減されることとなります。



改修を待つ鷺野尾池